

霧きり

札幌 山口 康徳

地球上掩ふ霧をばかき分けて魑魅魍魎は不気味にうごく
人力で防ぐ能はぬ天災に遭ふ人救く天の恵みは
えらばれし世界遺産に罷住まりてわれらこの地の住民と吠ゆ
足繁く訪ぬ台風人々に警告与ふ天の試練や
人類の心に住めるデーモンは勢力強く神常に負く

頭を冷やそう 札幌 古屋 統

北京競技場日本国家へのプリーング君が代反對論者よ君等は愉しいか
日の丸が中国人サポーターに焼かる、を国旗掲揚反對論者らはどう見る
対案を持たずに日の丸君が代の反対叫ぶ無責任の徒ら
幾兆円対中ODAの流る、を知らされていない我らは愚民か
「靖国」で首相にマイクを指す記者よアールントン墓地で頭冷やして来い

北海道医報人會詠草

薄野界限

札幌 小国 孝徳

練習に疲れてスキーを担ぎたる吾らの通ひし森永もなし
かの店のメツチェンにつき纏はれし応援団長の君もしかすがに困じ果てるき
よく笑ふ少女の故にリゾと呼びベーターヴェンをかけしめたりきリゾはムスクルス・リゾリウス笑筋の略
解剖に食欲失ひし吾がグルッペこの小路に半玉を呼びて飲みにき
スキーシーズン過ぐれば来りて水割りを飲みつつドイツの歌うたひにき

真夏日

帯広 中野 知弘

はらびひて真夏日ならばフランスのふるきロマンを読みつぎにけり
脱線もにほふが如くV・ユゴー花の都は糞尿譚へ
女子バレー、アテネに敗れ夜も更けぬ君なくて想ふ東京オリンピック
新婚に007も旅行きぬ裏盤梯の遠き思ひ出窃かにも冠たる邦と恃みつつと世ふりけり
庚午（1930）のわれは

予科記念碑 美唄 吉村 誠治

踰こぎつ、除幕の綱曳く先輩は予科帽に陣羽織なり
「都ぞ弥生」一番のみをやうやうに歌ひ終えたり感激醒めず
歌ひ出し調子揃わぬ「都ぞ弥生」青春の日の合唱となる
「大志を抱いて」カンラン岩に刻まれし青春甦る予科記念碑
7名の同期の友も集ひたり肩組み歌ふ「都ぞ弥生」

夕影の光

札幌 魚住あらた

足弱くなりぬしわれをつと想ふむらさきの花 酸漿の花
足弱くなりぬしわれはつと想ふわれにはほしき沙羅の花
老いつきて何の心を支へむとつくづくたりき朝日昇れと
足弱くなりぬしわれは老いつきて蒼天を想ふ聖夜の音を
老いつきて何に心を支へむと朝の理想ふ夕影の光

